

## もの言う牧師のエッセー・・・第246話

## 「障害者らも共に」

元建設作業員のアオちゃんこと青山さんは55歳。4年前に認知症と診断された。物忘れがひどくなり、ミスを繰り返して解雇され、自殺を考えるほどに追いつめられた。そんな折、訪ねた東京都町田市内のデイサービス「DAYS BLG!」で、いきなり「いい体してるじゃないか。この玉ネギを運んでくれよ」と声をかけられた。自分のようなものでも一人前に扱ってくれる。落ち込んでいる暇はないと思いなおし、町田市にあるホンダの販売店で展示品の車を洗うアルバイトを始めた。デイサービスを運営するNPO法人理事長の前田孝之氏は、利用者から「働きたい」という声を耳にし、多くの企業に頼んだがことごとく断られた。それはホンダの販売店も同じだった。「車に傷をつけられるのではないかと。粘り強く交渉しようやく認められた。

知的障害がある長女の居場所を求め、障害者の就労支援事業を始めて15年、300人に働く場を提供してきた長野県松川町の「アンサンブル会」理事長の小椋年男氏は、地域の小学校に通っていた長女が急に不登校になり、原因がわからずに悩んだが、自らの教育方針を曲げて養護学校に移らせたところ、態度は一変し、喜々として学校生活を送り始めたのだという。「地域で共に学ばせるのが、幸せなのだと思いでいた自分が浅はかだった。与えられるだけで、与え合うことが出来ない環境は娘にはつらかったのです」とふり返る。出来ないことへの配慮や助けだけではなく、出来ることにも目を向けなくてはいけないということか。

7月末、相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で、元職員の男が夜中に施設を襲撃し、ナイフで入所者を次々と刺し19人の命が奪われた。「障害者がいなくなればいい」などと供述する容疑者の物言いは、障害者を“価値なき生命”と決めつけ大量殺害に及んだナチス・ドイツを想起させるだけでなく、富と力、そして強者が支配的な現代の闇をも彷彿させる。しかしキリストのゴスペルはこれと真逆だ。

**「目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、  
耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。」**

**マタイの福音書11章5節：共同訳、**

とあるようにイエスは真っ先に弱者のために働き、そして立ち上がらせた。言わば教会はその遺産であり、弱き者が神と出会って強くなり、互いが支え合って生きる場所であり、それはイエスがやがて実現しようとしている「神の国」の予表なのである。日本人がキリストと出会い、神の力によって愛に満ちた人々となり、共に支え合う国となることを心から祈る。

2016-8-4

